

『地域包括ケアシステムって いったいなんだろう？』



H29年1月27日

たてやま整形外科クリニック

館山市リハビリテーションネットワーク

岡本 務（理学療法士）

この講義の目的

地域包括ケアシステムが必要な背景について
大まかに理解すること

地域包括ケアシステムが必要な背景

年齢階級別人口・構成割合の将来推計

	2012年	2025年		2030年	
	人口/割合	人口/割合	指数	人口/割合	指数
総人口	127,498千人 (100%)	120,659千人 (100%)	94.6 ↓	116,618千人 (100%)	91.5 ↓
15-64歳	80,173千人 (62.9%)	70,845千人 (58.7%)	88.4 ↓	67,730千人 (58.1%)	84.5 ↓
75歳以上	15,227千人 (11.9%)	21,786千人 (18.1%)	143.1 ↑	22,784千人 (19.5%)	149.6 ↑

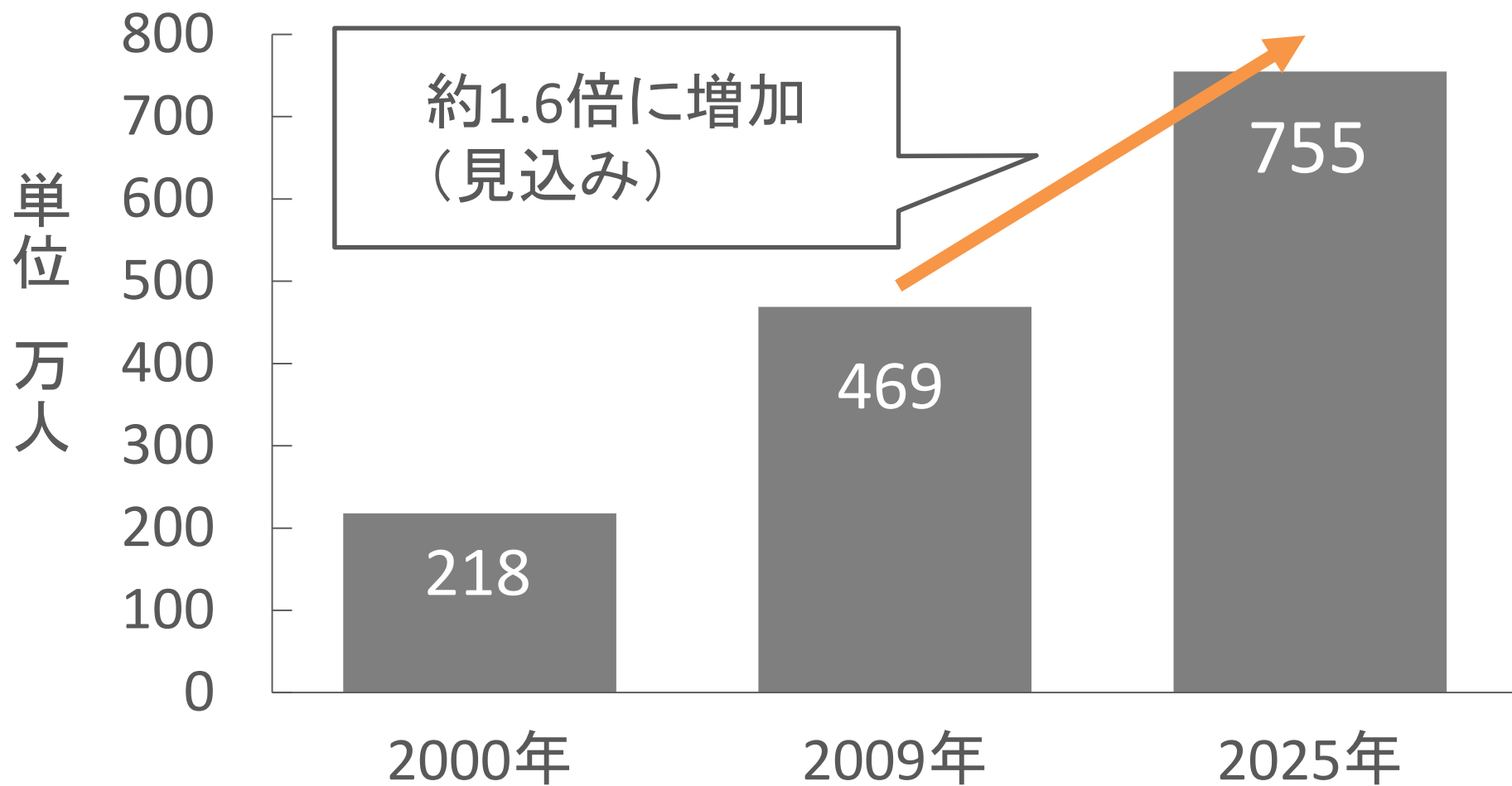
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(H24.1月推計)」

これにより何が起こるか？

- ① 医療や介護を必要とする方が**増加**
- ② 医療や介護にたずさわる専門職が**不足**
- ③ 医療や介護にかかるお金（社会保障費）は**膨大**になるが、**税収は減少**



要介護認定者数の推移 | 全国

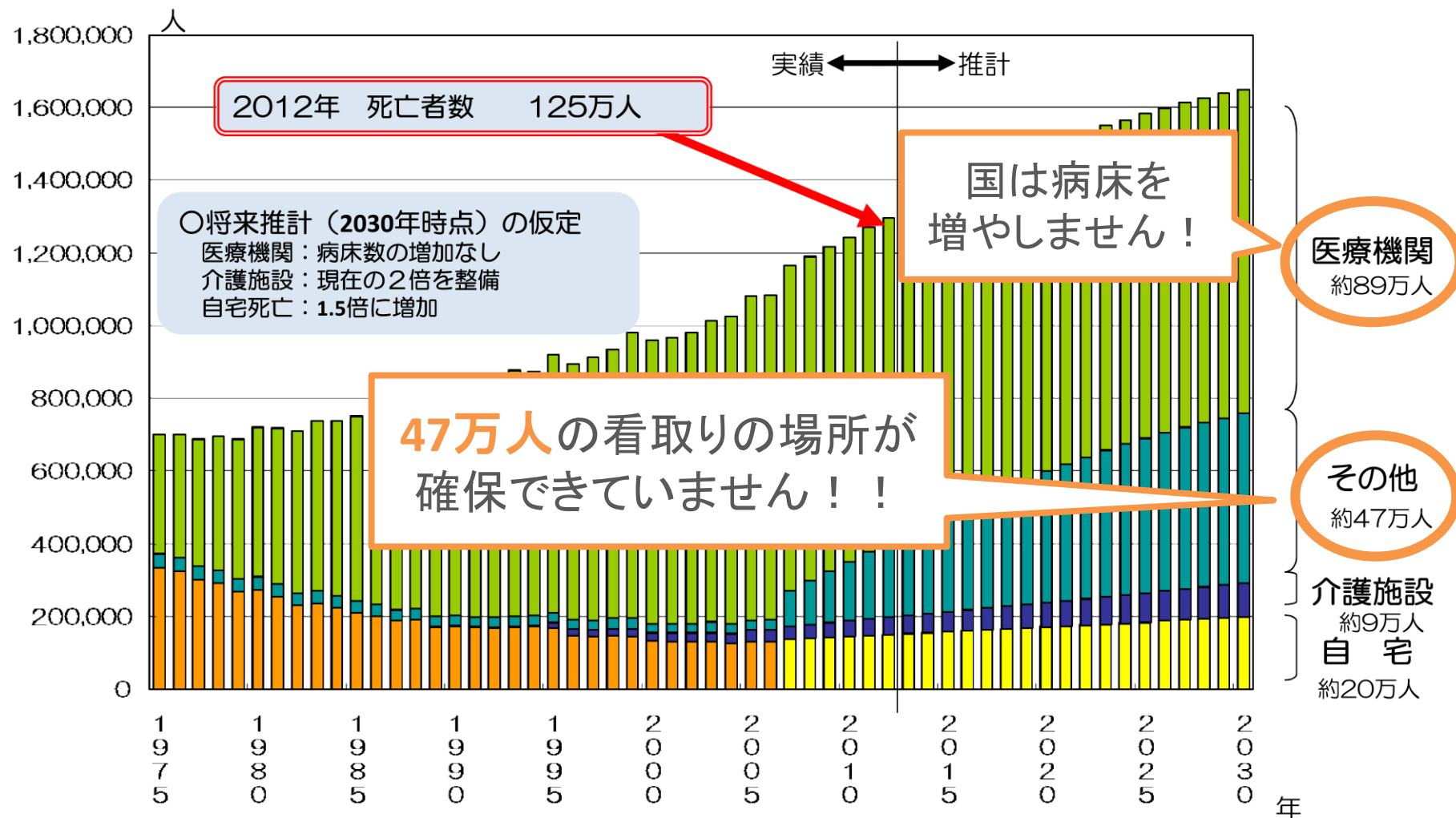


人口問題を背景にした 地域包括ケアシステム構築への方向性

- 医療や介護を必要としない高齢者をできるだけ増やす
- 専門職でなくてもできることは、**仕組み作りとやり方の指導**をしっかりとした上で、**他の人（介護職、住民など）にまかせる**
- 専門職は**専門職にしかできないこと**を行う

看取りの問題

～看取りの場所はどうなる？～



人口問題と看取りの問題を背景にした 地域包括ケアシステム構築への方向性

- **最後まで住める住居**を確保する
- 在宅生活において、
医療や介護が必要になったとしても、
少ない人材で効率よく、
効果的にサービスを提供する
- **在宅での看取り**ができる
- できるだけ**お金をかけず**に運用する

地域包括ケアシステムとは

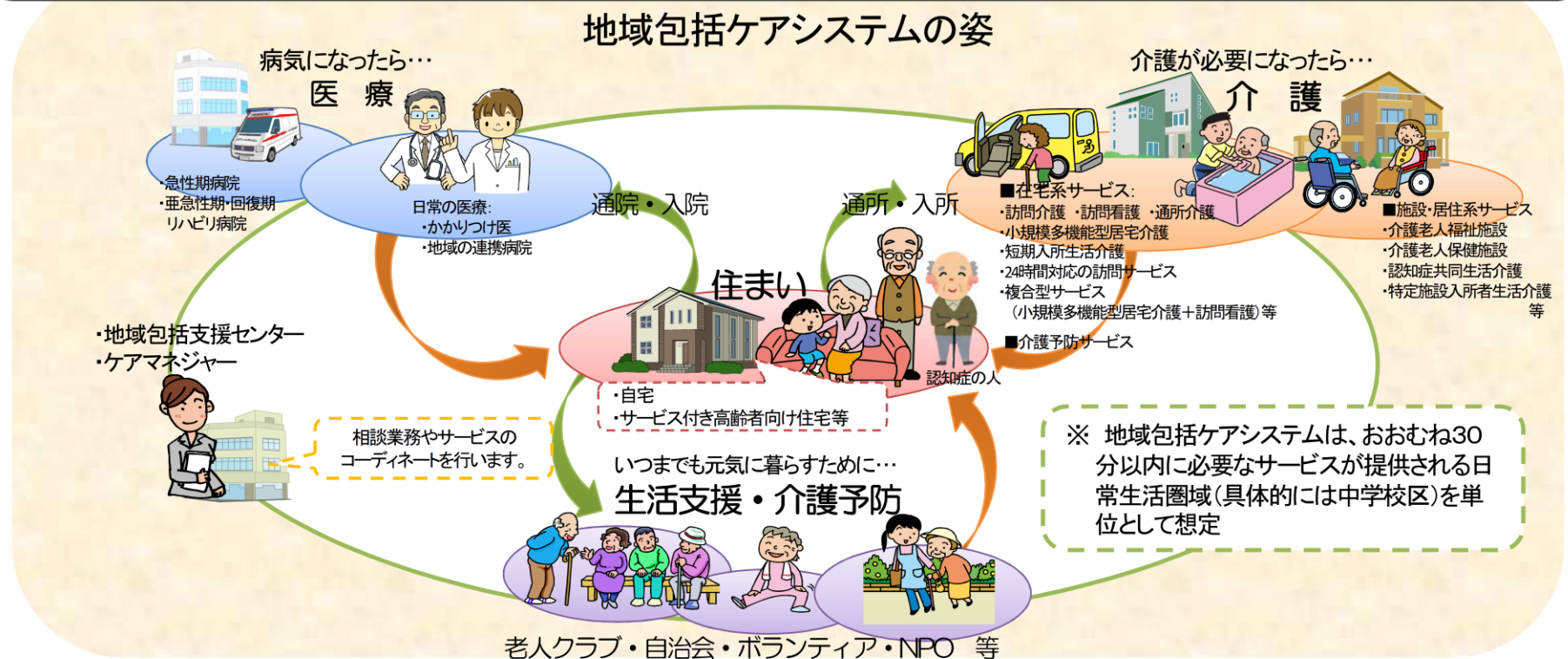
地域包括ケアシステム

- 「ニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で、生活上の安全・安心・健康を確保するために、医療や介護のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスが日常生活の場（日常生活圏域）で適切に提供できるような地域での体制」と定義
- その際、地域包括ケア圏域については、「おおむね30分以内に駆けつけられる圏域」を理想的な圏域と定義し、具体的には、中学校区を基本とする

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。

地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**ことが必要です。



植木鉢の概念図を知っていますか？



公助、共助

それでもだめなら社会保障で



互助

地域のことは地域で



自助

自分のことは自分で

本人の選択と本人・家族の心構え = 覚悟

- 従来のように、常に誰かが家の中にいて急変時には救急車で病院に搬送され病院で亡くなるといった最期ばかりではなくなる
- むしろ、毎日誰かが訪問してきて様子は見ているが、翌日になったら一人で亡くなっていたといった最期も珍しいことではなくなるだろう
- 「家族に見守られながら自宅でなくなる」わけではないことを、それぞれの住民が理解した上で在宅生活を選択する必要がある

共に考えましょう！

地域包括ケアシステムの
ストーリーに沿って
制度設計されることが
分かっているので、
住民・行政・専門職が力を合わせ、
**なるべく良い仕組みにする
働きかけ**が必要になります

